

山 事 研 會 報

山梨県公立小中学校事務職員研究会 編集発行人 調査広報部



第 16 号 平成 20 年 4 月 15 日 発行

関ブロ長野大会開催

平成20年1月24・25日と、長野県長野市の長野県県民文化会館において開催されました。参加者1,069名のうち山梨からも83名という大勢の参加がありました。

1日目は、やや雪もちらつく中会場へ到着しました。開会式、文部科学省の行政説明、全体研究として記念講演を聞きました。文部科学省の行政説明は、昨年秋の山梨の研究大会で講演していただいた初等中等教育局の山内領二氏で、教職員定数に関わる近々の様子などを加えながらの講演になりました。

2日目は、よく冷え込みましたが晴天となりました。会場では、大勢の参加者が各分科会に分かれ討議を深めました。

長野大会は、省けるものは省き極力お金をかけない、手作りの温かさで運営されており、山梨の大会へ向けてたいへん参考になりました。両日いずれも寒い中でしたが、会場の駐車場で、係りの方が笑顔で出迎えてくれたことがとても印象的でした。

この長野大会に参加して、次はいよいよ自分たちの順番かと、実感された参加者も多かったのではないのでしょうか。



記念講演会「ボケない脳、キしない脳をつくる」

諏訪東京理科大学共通教育センター教授 篠原 菊紀 氏

講演では、脳の発達段階を示しながら、発達段階を知ることと、衰えを防ぐことは同じであること。また、脳の簡単なテストを行いながら、ポイントとなる話を楽しくお聞きしました。

まず始めに、会場前10列の人には、「私の話が解らないな～という時は、わかった振り(ウンウンとうなずいて)をしてください。すると、後ろの人はその背中を見て、いかにも学習しているというぐさに見えて、(後ろで見ている人も)学習力が良くなります。話の内容が、たとえあまりよく解らなくても、「ハア？」ではなく、首を傾げてにっこり慈悲の笑みで、ウンウンニコニコしてください。」と、伝授され、笑いが起こる中、講演が始まりました。

前頭葉は、記憶を溜め込んで行く機能。進化史上、最後に発達した部位。人間らしさに、深く関わる部分。考える・我慢する・人の気持ちを感じ取るところ。(最近では、KY(空気が、読めない)。空気を読むのも前頭葉の働き。)自分の意思を決める(10歳頃つくられてきて、24・25歳頃完成する。思春期の不安定さや、その時期、「教育の壁」と言われるのも、「知・情」をコントロールする前頭葉が未発達であることが影

響している)

ゆっくりと発達し、急に衰えるのが特徴。→衰えを防ぐためには鍛え続ける。

ワーキングメモリ(脳の許容量)の力が落ちたり、未発達だったりすると、一杯一杯になりやすく、キレやすい、疲れやすい状態になる(自己愛的でこもりがちな傾向)同じ考え、情動が浮かびがち(頑固、鬱的)になる。

ちょっと手を伸ばせば何とかなる程度の、自分に合った難易度が脳のトレーニングがちょうど良い。他の人と比べてできる、できないではなく、自分にとってやや難しいことをすると良いトレーニングになる。(達成感や充実感を味わう)

身体からもワーキングメモリを刺激することができる。運動習慣のある人のほうが、脳が厚い(鍛えられている)とのこと。

○脳年齢推定の出来る携帯サイト「しのはら式脳の良くなる研究所」 <http://nouken.net/>

簡単にできる脳トレ

その1

右手で鼻をつまみ、左手で右耳をつまみ、手を離して拍手を1回。その反対の動作をして、1回でチェンジ・2回でチェンジ・拍手を増やして行く。

その2

後出しジャンケン

相手が出したものに対して必ず勝つパターン、逆に必ず負けるパターン。

認知症リスクを下げるには、バランスの良い食事を取り生活習慣病を防ぎ、体を動かし(適度な運動)、社会参加を続ける。日常的に、頭と体を使うこと。



分科会の様子

第一分科会 「学校教育目標達成のために、組織の中で機能する学校事務」

—すべての教育活動を「つなぐ」役割を担う学校事務をめざす— (長野支部)

近年、ITの普及によって「定型事務」が簡素化されてきている。それは、これまで行ってきた定型事務は誰がやっても同じで評価されにくいということを意味している。そしてこれまで以上に省力化が進めば、人員削減やアウトソーシングにつながってしまう。

その中で、「学校事務職員に求められている新たな役割」について長野支部からのレポートがあった。

これからの事務職員に期待されていることは、①学校経営への積極的な参画、②教育活動支援、③市町村教委との協働、④情報管理・公開、⑤家庭・子どもの目線にたった対応という5点。そしてキーワードは「つなぐ」ということ。「教師」と「子ども」をつなぐということ。「行政」と「学校」をつなぐということ。「地域・家庭」と「学校」をつなぐということ。そして「人・物・お金」をつなぐということは「心・思い」をつなぐということ。

子どもたちに豊かな学びを保障するために、「つなぐ」ということを意識して、子どもを中心とした事務活動を考えていくことが大切であると感じました。

(久那土中 渡邊新野)

第二分科会「東京の学校事務マニュアル(今ある教育現場の仕事の集大成として)」 —教員が教育活動に専念できるための環境整備としての学校事務— (東京小支部)

◆ 東京都の現状

三位一体の改革による国の補助金削減や道州制を想定した議論の中、自治体も合併統合され、大きな変化が全国にみられる。教育においても義務教育費国庫負担金補助率の削減がなされるなど変革の時期を迎えている。

こうした行財政改革、教育改革の流れに関わり、学校現場においても、職員が担う仕事の見直し等を迫られている。また、文部科学省が出した「新たな学校事務の業務内容の具体的例示」にも見られるように、学校事務に求められること、期待されることも変化し、業務の質はより高く、量はより多くなっている。

一方で、東京都では、県費負担事務職員の任命権を市区町村へ移譲する動きがあり、新規採用職員の変わりに退職後の再任用職員の採用拡大や人事交流が行われ、正規職員としての県費負担事務職員の削減とも読み取れるような動きがみられる。

このような状況の下、今の事務職員が参照するのはもちろん、将来の事務職員にもつなげていけるよう、仕事のノウハウを積み上げてマニュアル化している。



◆ 事務部経営案の作成

学校教育目標を達成させるための方策として、「事務部経営案」を作成し、さらには自己評価につなげるという武蔵野市立第一小学校の事例が報告された。

【『明るく元気な子ども』を重点目標とした事例】

P: 学校教育目標のひとつ『明るく元気な子ども』を具現化するための体育備品・施設等の充実に向けた「事務部経営案」を作成

D: SWOT分析を行い、その結果判明した自校の弱み・阻害的要因を解決するための予算編成(具体的に、予算の体育用具への重点配分・施設設備の補修 等)の手順・スケジュール等の検討及び業務(予算編成・執行等)の遂行

C: 「事務部重点努力目標達成評価」により、予算要求・執行・予算委員会の運営、情報発信・備品整理等について自己評価

A: 成果について分析し、継続・拡大、廃止または新たな目標を設定するのか検討

東京都の現状は山梨県とはかけ離れており、まったく別の次元で多くの問題を抱えていることを知った。そんな中で、事務部経営案作成等の取組を聞いて、「東京都の事務職員がんばれ！」とエールを送りたいと感じた。

(富士川小 中村友美)



第三分科会「学校の経営力の向上に資する事務職員のあり方」

試論—学校の経営力・教育力を向上させる学校事務の取り組み—（埼玉支部）

埼玉支部では「学校の経営力・教育力の向上のために、学校事務職員として何ができるか」が研究の柱であり、具体的には、現在学校現場で行っている様々な「事務」の課題を洗い出し、どのような方法で解決していくのか、さらには「学校事務」全体をどのように再編していくのかを考えたものでした。グループごとの研究協議では、3つの項目について話し合われました。「あなたが学校で求められ、日頃実際に行っていることは？」では、来校者や電話対応、予算・財務管理、情報管理、児童との交流、事務機器の修繕など様々なことがでました。1グループは10名程度的人数で、民間企業での経験がある方からは、学校でも「CS」が大事と話していました。CS(customer satisfaction)＝顧客満足は、お客様である児童生徒・保護者や地域に満足していただくために、何をどのように提供していくのか、それを達成するためには、ということを考えることが学校でも大事であるそうです。

助言者の校長先生からは事務職員に必要な「期待の4P」というお話もありました。

Propose・・・提案力（解決できなくても策が2，3できるように）

Personal computer・・・パソコン（操作できてあたりまえ）

PTA・・・PTAの執行部役員として（地域との連携）

Personality・・・人柄（総務として電話対応や、学校と外部との接点として）

グループでの協議もあり、様々な考えや実践を学ぶことができました。また、山梨大会にむけて各係や会場準備も見ましたが、係ごと連絡を取り合って情報交換しながら運営していました。とても寒い二日間でしたが、長野大会はあたたかい雰囲気でした。（岩手小 池田はるな）



全事研セミナー開催

平成20年2月29日、メルパルクホールにおいて「平成19年度 創立40周年記念 第14回 全事研セミナー」開催されました。

午前には、全国公立小中学校事務職員研究会も創立40周年とのことで、記念式典がありました。また、記念講演として文部科学省初等中等教育局長の金森越哉さんより「初等中等教育行政の諸課題について」と題した文部科学省行政説明、次年度の全国大会が行われる福島大会について大会実行委員会の佐藤公雄さんよりPR映像による報告、全国公立小中学校事務職員研究会副会長 小林敦志さんより全事研活動報告がありました。

午後には、「学校における危機管理について」と題して、大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター長 小山健蔵さんの講義があり、「学校事務この10年と今後の展望について」という演題でシンポジストに兵庫県立大学教授 清原正義さん、四街道市立中央小学校事務長 廣田正子さんを迎え、シンポジウムが行われました。

山梨県からは、5名の方が参加されました。参加者の中から、感想をいただきましたので、紹介いたします。感想の中に「山梨からは日帰りで参加できます。ぜひどうぞ。」とありますとおり、セミナーの開催は東京都と山梨県から近いところで行われ、内容や資料はとても参考になりますので、行かれていない方は是非！参加されることをおすすめします！！

全事研セミナーに参加して

「文科省の行政説明」は、初等中等教育局長の金森越哉さんが行いました。“教員の子どもと向き合う時間の拡充”では、教員多忙化を教員の定数増で解決するというものでした。事務職員との関連も気になっていましたが今回は入っていませんでした。“学校現場の負担軽減プロジェクトの中間まとめ”(H19.12.7)では、調査事項の精選・方法の改善・文書処理の方針・事務処理の体制などの項目も興味深いものでした。このチームの委員には、全事研副会長檜山先生が入っているとのことで、より現場に即した提言になっているのだと感じました。

「学校における危機管理について」は、大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター小山健蔵教授の講義でした。平成13年6月8日児童8名死亡、13名負傷、教員2名負傷の大阪教育大付属池田小事件。この事件では、親は文科省と裁判をせず合意をしたとのことでした。その合意とは、事件を風化させずに全国にこの事件を発信することで、日本の子どもの安全の発信地とすること、危機管理意識をもった教員を育てること。小山先生自身、使命を持っていると言い、大阪大学では“学校安全”を教職関連科目の必修としているとのことでした。事件の概要を聞くと、今でこそ、ここが不適切とかあそこも不適切など気づくことができますが、それは尊い命の犠牲があって、学校の安全が叫ばれたからこそわかるのだとつくづく思いました。いくら設備が整っても大人の目が必要であること、事件・事故発生の際には、嘘を言わない、被害者の気持ちになって話を進めること、事務職員が教師・子どもに関心を持つことが子どもの安

全を守る第一歩であることなど具体的で分かりやすい内容でした。

「学校事務この10年と今後の展望について」は、清原正義先生と全事研前会長廣田正子先生のシンポジウムでした。まず清原先生が、ここ10年の課題を述べ、教員の多忙化を解消するには、学校の運営組織の見直しを行い、校長の権限を中堅リーダー（事務長）に委譲すべきで、職務と権限を明確にすべきである。今後は、定型的業務はアウトソーシングが必要で、県・市町村それぞれで教育環境を整えるシステムを考える。地域の中の学校事務をイメージして校務分掌を考えることも必要で、学校支援地域本部の事業もコンタクトするのは事務職員ではないか。学校事務職員のミッション・ビジョン・パッション・アクション…これからの学校のあり方を見据えた上で、新しい学校事務を創造する力を貯えてほしい。職務はいろいろな方向へ広がるのではないかと結ばれました。

（本当はここがメインだったと思いますが、今回も清原先生のお話は難しかったです。）

「全事研の活動報告」では、研究活動の報告のほかに、“教育改革・行政改革への対応 学校事務職員制度に関連する事項”がていねいに資料として載っています。各種委員会等への全事研の意見書もあって読み応え充分です。全事研セミナーは全国規模ですが、山梨からは日帰りで参加できます。ぜひどうぞ。

（上野原中学校 清水明子）



平成20年度の主な予定

- ☆ 5月29日(木) 第1回 研修会・第11回総会
福利給与課の講師による研修
- ☆ 8月6日～8日 第40回全国学校事務研究大会福島大会
- ☆ 1月29日(木)・30日(金)
第40回関東地区学校事務研究大会山梨大会
- ☆ 2月27日(金) 全事研セミナー

今年度は、いよいよ山梨県で
関プロが開催されます。

みなさん、ご協力ご支援をよ
ろしくお願いいたします。



山梨県小中学校事務職員研究会
入 会 申 込 書

平成 年 月 日

会費(2,000円)を添えて、申し込めます。

氏 名	
学校名	学校

----- 切り取り -----

領 収 証

様

2,000円

但し、山梨県公立小中学校事務職員研究会費として、上記のとおり領収いたしました

平成 年 月 日

山梨県公立小中学校事務職員研究会 会長 佐藤 朝幸

